

おうみネット

2015

94

Summer

Ohmi Net | ●発行日 / 2015年6月15日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

① 地域を守る

～それぞれの地域で始まった地域見守りの仕組み
誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らせる社会を～

⑤ おうみの市民と企業が **ともに Grow**

地域で子どもを育てるまちづくりを進めたい

Grow 02

青少年育成

特定非営利活動法人
どろんこ

地域で子どもたちを育てる場、みんなの居場所づくり

Grow 01

地域交流

特定非営利活動法人
エトコロ

社会貢献する「世間よし」企業紹介

Grow

Grow 04

世間よし

積水化成品工業株式会社

多様な住民や様々な団体が出会い交流するきっかけをつくる

Grow 03

多文化共生

かふか
鹿深 de ござれ!



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

地域を守る

それぞれの地域で始まった地域見守りの仕組み
誰もが住み慣れた地域で
安心・安全に暮らせる社会を

少子高齢化が進展する中、地域のコミュニティ機能の弱体化や家族の支え合う機能の低下などが懸念されています。高齢者のみならず日常生活に不便を感じている人を見守る活動が、県内各地で始まっています。県内の三地域の見守り活動開始のきっかけや仕組みを紹介します。

活動の始まったそれぞれの地域の概況

高島市「見守りネットワーク」

<DATA>

○面積：511.36km² ○人口：51,312人(2015年)
○世帯数：20,166世帯(2015年) ○高齢化率：32% (2015年)

<地域の特徴>

- ・古くから北陸と京都を結ぶ要衝
- ・今も自然(里山・里湖)と共生してきた生活文化を継承している
- ・海津大崎の桜並木や、針江生水の郷など14の「日本百選」がある
- ・今後、若者層の流出が予想され、高齢化の上昇に拍車がかかる

守山市勝部自治会「勝部の高齢者いきいき事業」

<DATA>

○面積：0.99km² ○人口：4,569人(2015年)
○世帯数：1,925世帯(2015年) 高齢化率：13.3% (2015年)

<地域の特徴>

- ・守山市で二番目に大きな自治会
- ・1958年指定、県選択無形民族文化財「勝部の火祭り」で有名な勝部神社を擁する
- ・京阪神のベッドタウンとして、今後も人口増が続くと予想(200戸が建設中)

東近江市永源寺地区「生活支援サポーター絆」

<DATA>

○面積：181.27km² ○人口：5,678人(2015年)
○世帯数：1,907世帯(2015年) ○高齢化率：31.9% (2015年)

<地域の特徴>

- ・東近江市の最東部にある山間の地域 ・臨済宗永源寺の総本山である永源寺を擁する
- ・高齢化率70%を越える集落もある高齢化と、過疎化が進展
- ・若者の流出が続く

1

高島市

地域でお互いが
「気になる人を見守る」
ネットワークづくりに取り組む

見守りネットワーク活動(高島市)

高島市では地域ぐるみで住民が主体的に取り組む「見守りネットワーク」活動が行われています。高島市社会福祉協議会(以下、社協)事務局長の井岡さんに、本事業について伺いました。

Q 「見守りネットワーク」活動のきっかけを教えてください

A 二〇〇九年に、二〇一〇年度から五カ年計画である「地域福祉推進計画」策定の会議がもたれ、住民、ボランティア、NPOや福祉団体等多くの関係者と一緒、日頃感じている問題の掘り起こしと共有を行った結果、地域の見守りの必要性を確認し、お互いの持つ情報を共有する「見守りネットワークづくりの推進」が同計画の重点事業として位置づけられました。高島市社協では、計画の具現化のため、多様な関係者の話し合いの場づくりやネットワーク化、課題の抽出・分析、活動の広報などをおこないました。また、中央共同募金会のモデル事業として助成を受けることができ、取り組みに向けた体制が整いました。

Q この活動は、どのように発展し、活動されていますか

A 「住民福祉こんだん会」を通じて住民説明を行い、見守りネットワーク活動が必要な取り

組みだと役員が合意された区・自治会から活動がスタートしました。現在、二百四ある自治会の三割を超える七十四自治会で、お互いに支え合う地域づくりのために「気になる人を見守る」という概念を持って活動しています。地域住民がお互いを知り交流できる「居場所づくり」、気になる方のお宅を訪問する「見守り」、日常生活の困りごとを手助けする「生活支援」が活動の三本柱です。見守りの中から気になった事は見守り会議で共有し、福祉の専門職も会議に出席して、住民と共に一人ひとりを支えています。見守



井岡 仁志(いおか ひとし)さん
(高島市社会福祉協議会事務局長)

広告制作、FMラジオ局の仕事を経て、30代で滋賀県朽木村に移住。木こり生活を体験後、2003年に朽木村社協に入職。2005年合併に伴い高島市社協職員として地域福祉・ボランティアセンター業務を経て現在に至る。



▲ワンコインカフェに集まったみなさん

りネットワーク活動を市内全域に波及させていくためには、活動の見える化が必要です。一年間の活動の集大成として「たかしま見守りフォーラム」を開催、生き活きと楽しみながら活動されている様子を動画で紹介します。動画の中の「やってよかった」と言う声は、活動を始めようとする人への動機付けとして大いに効果的です。映像はDVDにして参加者に配布、取り組みの見直しや、新たに始める上での参考にもなっています。

Q 今後の取り組みについてお聞かせください

A 見守りネットワーク活動は、全市の36%の自治会で取り組まれています。まだまだ活動を広げていく必要があります。また、市内六地域ごとに住民福祉活動計画が住民主体で策定されました。「十年後の



▲見守り訪問

理想のまち(Wish Point)を描いていた。だき、バックキャスト方式※によりそれぞれの段階での目標も具体化されています。この計画の具現化のためには、今後の人口減少や高齢化問題をみると、狭い意味の福祉活動に限らない「地域づくり」が求められます。地域でどう暮らすかを常に考える必要があります。

※バックキャスト(石田秀輝)東北大学大学院 環境科学研究科教授のHPより抜粋)

未来を予測するうえで、目標となるような状態・状況を想定し、そこから現在に立ち戻って「やるべきこと」を考えるやり方。地球温暖化などの環境問題を解決に役立つ手法として注目されている。バックキャストリングともいう。

Essay. I 市民活動をサポート!

県民活動・協働推進室を新設

複雑化・高度化する地域課題や行政ニーズにきめ細かく対応していくためには、県民をはじめ、NPO、企業、大学等の多様な主体との協働・連携が不可欠であることから、滋賀県では総合政策部県民活動生活課内に「県民活動・協働推進室」を平成27年4月に新たに設置しました。県民活動・協働推進室では、多様な主体との協働・連携により、各主体の特性や強みを活かしながら、地域の課題を解決していこうとしています。その取組の一つとして、あらゆる機会をとらえて、NPO法人の設立・運営および仕組みや県の施策等について、一般県民やNPO関係者を対象に県職員が講義を行い、NPOの活動や県行政について知っていただくとともに、社会貢献活動への参加や多様な主体との協働を呼びかける「NPO・協働はやりわかり講座」事業を実施しております。講座開催に御協力いただける団体を随時募集しておりますので、当室あてにお問い合わせください。

★滋賀県 県民活動生活課
県民活動・協働推進室
TEL:077-528-4633

滋賀県 総合政策部
県民活動生活課
県民活動・協働推進室
伊藤 貴庸(いとう たかのぶ)さん



Voice

参加者の声

Aさん
活動地区：安曇川 活動歴：四年
以前から社会福祉協議会の諸事業に関わり、その続きで活動に参加するようになりました。「気になる人」は、高齢者でなくても、子育て中の人、様々な困難を抱える人など様々です。自然にみんなが「こんにちは、お元気ですか」と声掛けをする中、今まで気になっていた人が、ある時、イベント会場の外を掃除されていた。嬉しかったです。

Bさん
活動地区：安曇川 活動歴：四年
ボランティアの福祉推進委員として二十年、「支え合おう藤江コスモス会」というサロン活動では、子どもからお年寄りまで、お互いが支え合うという気持ちで取り組んできました。認知症の勉強会や、対応の模擬訓練を行うことで、地域の中に連携が生まれました。ワンコインカフェでは、顔を見せない人にも来てほしいので、気軽に声掛け出来る工夫をしています。

守山市

誰もが、それぞれの
持っている能力を活かし
生き活きと暮らせるように

勝部の高齢者いきいき事業(守山市勝部自治会)

自治会組織の中から、今後の高齢社会に対応した取り組みの必要性を感じて活動を開始された守山市勝部自治会・自治会長の小嶋宣秀さんにお話を伺いました。

Q 「勝部の高齢者いきいき事業」のきっかけを教えてください

A 七年前、自治会館の建て直しの話が持ち上がった時(一旦は、建設資金の目処が付かず諦める事になったが)、当時、守山市の福祉政策を担当する女性技官(厚生労働省より派遣)から、勝部自治会の活動が盛んな事に目を留め、国の高齢者対策事業の「先進的的事业支援特別交付金を利用してはどうか」という助言がありました。その際、ハード面だけではなく、今後の高齢社会に向けソフト面の充実にも取り組んでほしいとの申し出に、委員会では「何が出来るか」を何回にもわたって検討、多くの意見が出され協議する中「高齢者いきいき事業」と名付け、出来ることから活動を開始することになりました。

します。防犯・防災・防火活動 交通安全運動、あいさつ運動として巡回、不審なものを見かけた時は、警察へも通報します。隊員は、免許を持つ者しか関われないこの青色回転灯パトロールに誇りを持ちながら活動しています。

Q 具体的にどのような活動をなさっていますか

A 「青色回転灯パトロール隊」は、一週間に一回以上、チームを組んで青色回転灯の点灯する軽トラックに乗って地域を巡回

宅地化の進む同地域に、転入する人も今も続いています。古くから地元で食されてきた伝統食を、新しい世代にも伝えたいと「勝部のおふくろの味伝え隊」は、会員約十六名が年に数回講習会を開催しています。レシピ集も二冊発行しました。自治会内の子ども対象の夏休みイベントでは、空き缶や青竹でご飯を炊き、流しそつめん、飯盒炊さんなどを



小嶋 宣秀(じま のぶひで)さん
(守山市勝部自治会長)

勝部に生まれ育ち、40年間の公務員(守山市役所)生活を経て、ふるさとのまちづくりに第2の人生を懸ける。子ども会活動、青年団活動、PTA活動そして火まつり活動を経験し、『住みよいまち・活気あふれるまちづくり』をスローガンに自治会活動に取り組んでいる。



▲ちょっとカフェ



▲体のリフレッシュ隊

行って、食を通じた世代を超えた交流の場となっています。

毎月二回、自治会館内で「ちょっとカフェ」が開催されています。子ども連れのお母さん達のお話の場、打ち合わせの場など、初めて顔を合わせる方も気軽に話しが弾み、仲間作り・地域の交流の場となっています。久しく顔を出さない人へのカフェへの呼びかけは、見守りにも繋がっています。

健康の輪を広げる「体のリフレッシュ隊」は毎週開催、「勝部の文化伝え隊」は歴史文化サロンとして、毎月二回地元に行

残る伝統や文化を継承するため、資料収集や現地研修などの活動をおこなっています。二年後の自治会館建設に合わせて発行する『勝部史誌』の編集に向けて精力的な活動を行っています。自治会の活動の様子や行事予定などは、毎月発行の「勝部だより」で、詳しくお知らせしています。また、毎週土曜日は事業の円滑な推進のため執行部役員会議がもたれます。

Q 今後の取り組みについてお聞かせください。

A まだまだ人口増が予想されるこの地域で、昔から居る人も昨日来た人誰もが、それぞれの持っている能力を発揮し活き活きと暮らせるように、また、介護保険の制度改正に伴い高齢者を地域で支えるしくみを自治会で創ろうと、組織の法人化も視野に入れていきます。

参加者の声

Voice

「勝部のおふくろの味伝え隊」に参加した方に聞きました

今回が初めての参加です。「かつぱだより」を見てこのイベントを知りました。友達にも声を掛けましたが、都合がつかず、一人で参加しましたが、珍しい食の内容も良かったし、参加して良かったです。(駅前のマンションにお住まいの静岡から越してこられた女性)

「勝部のおふくろの味伝え隊」の世話役を務められる男性に聞きました

年に二回ほど、「みんなでワイワイ言いながら、楽しく作ろう」をモットーに教室を開催しています。子ども達へは、非常の際にも役立つような食事作りの場を提供しながら交流を深めています。「昔からの縁」を大切にしています。

東近江市

地域の中で互いが寄り添い助け合いながら暮らせることを目指して

「生活支援サポーター絆」(東近江市永源寺地区)

毎月の定例懇談会に参加させていただき、お話を伺いました。

活動の始まりは「生活支援サポーター養成講座」受講生の熱い思いから

平成二十三年東近江市社会福祉協議会主催で開催された永源寺地区「生活支援サポーター養成講座」受講生は、講座で感じた思いを話し合う中で、「永源寺で何かしたい」「住民でも暮らしの手伝いは出来る」「一人ではなく、みんなで取り組んでいく必要がある」などの熱い思いを共有し、この想いを活動に繋げるために、九回にわたる懇談会を開催しました。

「生活支援サポーター活動の手引き」は活動の道しるべ

生活を支えてほしい人(依頼者)と支えることが出来る人(サポーター)両者の新たな支え合いの仕組みを実践するために、社協のバックアップのもと「生活支援サポーター活動の手引き」を作成しました。話し合いを重ねて作られたこの手引きには、心構えや活動ルール、料金設定などが盛り込まれ、活動を行う上で大切な道しるべになっています。

「生活支援サポーター絆」の誕生

受講生三十四名で二〇二二年一月「生活支援サポーター絆」が誕生、活動が始まりました。原則二人一組で、ケアマネなどの福祉専門職から連絡のあった依頼者



▲毎月の定例懇談会

をお互いが情報交換し今後の訪問に活かしています。サポーター同士の情報交換では解決できないような問題など、必要に応じて福祉の専門職へ繋ぐなどの連携も行われています。サポーターの活動は、安否確認を兼ねた訪問や話し相手、買い物付き添い、「ゴミ

の元を訪問します。訪問先はサポーターの担当制ではなく、都合のつくサポーターが都度訪れるため、毎月の定例懇談会では、訪問の様子

Essay. II

おうみ未来塾リレーエッセイ

中山間は新時代のフロンティア

7期生 藤田知丈(ふじた ともたけ)
「ひょうたんからKO-MA」&
「逢味おむすび隊」

近江八幡でまちづくり活動に関わっていましたが、昨年春に心機一転、米原市の奥伊吹地域に移住しました。奇しくも同じ7期生の「曲谷口ハス倶楽部」の皆さんが地域プロデュースの現場に選び、「EVE 氣みちひらきまつり」を開催した地域です。茅葺き古民家に住み、棚田を耕し、深遠な森が育む豊富な湧き水や多様な動植物に囲まれて、実に心豊かな日々を送っています。米原市で昨年11月に開催された「ハッピースローライフフェス」や今年4月の「サティシュ・クマールさんお話し会& ゆっくりマルシェ」等にも関わらせていただきました。限界集落と呼ばれ、時代から取り残されている感のある中山間地域ですが、実はその気になれば原発にも石油にも頼らず自立・自活可能な新時代のフロンティアだと確信し、この豊かな山里を拠点に、真に持続可能な地域社会の実現に向け、「暮らシフト研究所」を旗揚げして、微力ながら一歩ずつ歩んでいます。



出しなど、制度などを利用できない普段の困りごとの手伝いです。

活動はまだ始まったばかり

サポーターの活動は、普段の生活の中の自然な声かけにも繋がるようになりま

まとめ

活動開始のきっかけは様々ですが、お話を伺う中で共通する点が幾つか浮かび上がってきました。

- 多くの人を巻き込んで取り組みに対する計画を作成し、様々なアイデアで実行、努力を重ねている
- 活動情報を積極的に発信し、取り組みのオープン化に努めている
- 情報共有などのために、頻繁に会議などを開催している

仕組み作りから活動に至るまでには、いろいろな経緯や背景がありました。どの事例もが、今後の社会情勢の変化を見据え、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らせる社会を目指して活動を進めています。これら事例を参考に、自身の暮らす地域ではどんな仕組みが作れるかということを考えてみませんか。

した。今後はサポーター自らの知識や技術の向上のための勉強の機会も設けながら、地域の中で互いが寄り添い助け合いながら暮らせるよう活動を続けていきたいとの想いは、絆メンバーの誰もが共有しています。

ともに Grow

県内で活躍する NPO や
社会貢献企業を
レポート!

Grow 01 市民 ● 地域交流

子どもを地域で育てるまちづくり



▲あどがわジュニアスポーツクラブの活動

町職員として生涯学習に関わってこられた保井五雄さんは、子どもの夢がふくらむまちづくりを目指し、二〇〇五年に NPO 法人を設立されました。特に、障がいを持つ子どもが学校から帰った後、地域の子ともたちと遊ぶ機会が

少なく、地域とのつながりが持てにくい現状に、地域に障がいのある子どもも一緒に活動する場が必要との思いから体験活動を実施。夏のキャンプでは、子どもたちが障がいのある子をサポートし、自然な交流が芽生えてきました。



▲リズム遊び

特定非営利活動法人 エトコロ

代表 ● 河島 正行 (かわしま まさゆき)
設立 ● 2011年 会員 ● 35名
連絡先 ● 東近江市林町2-1
TEL&FAX : 0748-56-1214
E-mail : etokoro2011@gmail.com
URL : http://www.etokoro.org

さまざまな人に 切れ目のない支援。 エトコロを人が集う居場所へ

「ええところ」を名前の由来にもつ特定非営利活動法人エトコロ(以下、エトコロ)は JR 能登川駅前にあります。古民家を壊して駐車場にとの話に、これだけの古民家を壊すのはもったいないと、地域の有志が立ちあがったのが、エトコロのはじまり。どこか懐かしく居るだけでほっとできるこの古民家で何ができるだろうかと話し合う中で、「地域の人が交流できる場にしていきたい」「この地域で子どもたちの健やかな成長を見守り、五感を育む場をつくれないうか」という思いが高まりました。そこで、まずは、月に2回、未就園の親子を対象とした親子教室を開催することに。地域で活動されている方を講師にお招きしたり、毎回の読み聞かせタイムには地元のおばちゃんにお越しいただいたり、地域の中での子育ての場づくりを継続。昨年度は、東近江市子育て拠点づくりモデル事業を受託し、結婚・妊娠・出産・子育て・就労までの切れ目のない支援の場づくりとして、さまざまな



▲縁側で絵本の読み聞かせ

講座を開講。地域のお年寄りの方にもエトコロをご利用いただき、地域で子どもたちを育てる場づくり、みんなの居場所づくりへと新しい展開に挑戦されています。立派な蔵もあり蔵の中に一歩足を踏み入れると、一瞬にして非日常の世界へ入り込んだよう。いろんな使い方のできるエトコロです。

子育て世代だけでなく多世代、いろんな人が集える居場所であり続けたいと言われていたのが印象的でした。今後についてはエトコロに集うみなさんの声を活かしながら、ともに考えていきたいとのことです。(おうみネットサポーター 河林 利明)

鹿深(甲賀)の豊かな多文化共生へ 住民と外国籍住民の懸け橋に!



▲まつり de コミュニケーション

「鹿深 de こざれ!」は、二〇一二年十月「おうみ未来塾」第十二期生の活動の中から生まれたグループです。活動地域の甲賀市は県下屈指の外国籍住民多住エリアです。多様な文化的背景を持つ人同士が自然に交流できる機会を

創出し、心通う関係づくりを行い、その事で街の活性化に寄与する事を目指して活動を始めました。まずは、地域団体や市民団体と「多文化共生」を中心テーマに意見交換会を行いました。その結果、多様な住民や様々な団体が出

社会貢献する
「世間よし」企業紹介

積水化成成品工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号
TEL: 06-6365-3014 FAX: 06-6365-3114
URL: <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>

「積水化成成品基金」による
市民環境保全活動の支援

積水化成成品工業株式会社(本社:大阪市)は、CSR宣言「人と環境を大切に 夢をふくらませる積水化成成品グループ」の趣旨に沿って、市民による継続的な環境保全活動を応援するとともに、当社グループ社員がボランティアにより活動を支えることを目的として、2012年7月に「公益財団法人 淡海文化振興財団」が運営される「未来ファン ドおうみ」へ寄付による「積水化成成品基金」を開設しました。



▲淡海文化振興財団へ3年連続で寄付

この基金は、寄付者の思いを活かせることが特長で、当社の希望である生物多様性保全活動を行う団体が選定されました。2015年度の助成団体には、昨年度に引き続き「NPO法人甲賀の環境・里山元気会」が選定され、同団体の里山保全活動を支援しています。同団体の里山(滋賀県甲賀市水口町松尾)での里山保全活動に、2013年から合計5回、当社グループ社員が延べ46名参加しました。同団体代表の松本様に日程調整をお願いし、今年4月4日に、新入社員研修の一環として、積水化成成品グループの新入社員15名が参加しました。新入社員の参加は初めてでしたが、自然豊かな里山で自然の大切さや豊かさを感じ、市民による環境保全の現状を少しは理解してもらえたと思います。当日は、会員の方からパンやピザ作りを教えて頂き、お昼はかやくご飯とみそ汁をご馳走になり、自分達が作ったパンやピザに舌鼓を打ちながら、会員の皆様と親睦を深めました。午後からは3班に分かれ、原木に駒菌を打ち込み、椎茸のほだ木作りを体験しました。これからも、当社グループ会社に本活動をPRし、参加者を増やして更に活性化していきたいと考えています。



▲新入社員研修の一環として、里山保全活動に参加

(管理本部 総務部 総務グループ 主事 柳瀬 公明)

特定非営利活動法人 **どろんこ**

理事長 ● 保井 五雄(やすい いつお)
設立 ● 2005年 会員数 ● 25名
連絡先 ● 高島市安曇川町田中357-2
TEL&FAX: 0740-32-2163
E-mail: npo.doronko@xa3.so-net.ne.jp
URL: <http://www.machiken-doronko.com/>



▲創年(後期高齢者)カレッジの活動

農業体験では、親にも参加を呼びかけ、親も体験から学ぶ機会となっています。低学年向けの体操教室では農業体験やスキー、水泳など年齢に応じた体験を提供しています。高齢者向け体操教室や「創年カレッジ」(後期高齢者サークル)では、転倒予防運動やものづくり、お食事会、音楽療法もあり、健康とコミュニケーションづくりを目指しています。高齢者と子どもたちが一緒にお月見をしたり、華道や茶道の体験をしたり、高齢者に役わりを作り、子どもの育ちに関わる機会を持っています。

どろんこの建物は、災害時に避難所に入りにくい障がいのある子どもや家族が避難できず、その視点から、東日本大震災では避難所で食事に困っている高齢者や障がい者のために、いち早くレトルトパックのおかゆを支援され、現在も仮設住宅に暮らす高齢者へ送り続けています。障がいを持つ子どものための「おもちゃ図書館」も継続的に開催。「楽しみにしてくれている子どもたちに励まされている」と、東北へ足を運ばれています。

Grow 03 市民 ● 多文化共生

2015年ナカザワNEOフレンドシップ基金助成採択団体

かぶか **鹿深 de ござれ!**

代表 ● 居山 翠(いよま みどり)
設立 ● 2012年 会員 ● 15名
連絡先 ● 甲賀市水口町城内7-18ひだまり内
facebook: <http://www.facebook.com/gozare>
ブログ: <http://gozare.shiga-saku.net>
E-mail: gozare2013@gmail.com



◀おにく de コミュニケーション

会い交流するきっかけ作りが必要との事で意見が一致、定期的に異文化コミュニケーションワークショップを開催する事になりました。ワークショップのテーマは、参加者が地域(鹿深)の文化や歴史を理解し、それにより互いの文化を尊重出来るよう計画しています。毎回、「○○ de コミュニケーション」をテーマとし、○○には「ごはん」(国別料理)や、ま(自慢)や、ま(荒木 威)つり、おもち、おにく(BBQ)などが入り、三文字の言葉で外国籍の方にも親しみやすいネーミングとなっています。ワークショップに参加した外国籍の方からの「どこへ行けばあなた達に会えるの?」との問いかけは、気軽に立ち寄れる居場所「ひだまり」の開所・運用にも繋がりました。「ひだまり」へ毎回集う人も増えてきました。グループの活動の重要性や意義が認められ「甲賀市市民協働事業提案制度」や、当財団の「ナカザワNEOフレンドシップ基金」に採択され、会員の熱い想いで、今後の活動は拡大・発展へと繋がっていきます。

お知らせ 『おうみ良くなる！元気商品プロジェクト』
ロゴマーク最優秀賞作品決定

『おうみ良くなる！元気商品プロジェクト』は、未来ファンドおうみへの寄付を募るための一環として行うもので、企業と当財団がWin-Winの関係で寄付つき商品をつくり、消費者が寄付つき商品(おうみ良くなる！元気商品)を購入することにより、地域づくりへの想いや願いを実現し、おうみ(滋賀)の地域社会をもっと良くしていこうと始めるものです。

今回、寄付つき商品(おうみ良くなる！元気商品)が店頭等にならび、本プロジェクトがより多くの消費者にアピールできるロゴ

マークを公募したところ、全国からロゴマーク86点のご応募をいただきました。

厳正な審査の結果、天木 巧さんのロゴマークが最優秀賞作品に選ばれました。



◎最優秀賞 天木 巧様(神奈川県川崎市)

講座 “滋賀初” NPO 法人事務力アップセミナー&検定(初級)を開催！

NPO 法人を運営していく上で必要となる、運営、所轄庁手続き、登記、雇用関係、経理等の事務手続き全体を学び、その習熟度を把握し、団体の事務力向上につなげることを目指し、セミナー&検定を開催いたします。

◇日時

①NPO 法人事務力アップセミナー
7月9日(木) 9:30 ~ 16:30

②NPO 法人事務力検定(初級)
7月17日(金) 10:00 ~ 12:00

◇対象：どなたでも

◇参加費：セミナー&検定受検 3,000円
セミナーのみ 2,500円
検定のみ 1,000円

※本講座の詳細については、当センターブログをご覧ください。

講座 おうみ未来塾13期生
中間報告会開催

おうみ未来塾第13期生は、2年目に入り、グループに分かれて実践活動を行っています。グループごとに、今までの活動状況を報告します。多数の方のご参加をお待ちしています。

◇日時：6月28日(日) 13:00 ~

◇会場：ピアザ淡海 3階 305会議室

～おうみ未来塾第13期のグループ紹介～

1. キモチカエル@兵主

活動場所：野洲市 兵主

テーマ：「郷土料理を楽しみ、兵主をもっと好きになる！」

2. 草津ファン☆プロ

活動場所：草津市内

テーマ：「地域の魅力と人をつなぎ、地域参加のきっかけを作る！」

3. baseOtsu_cross (ベースオオツクロス)

活動場所：大津市 ナカマチ商店街

テーマ：「大津ナカマチ商店街に賑わいを創り出す」

編集後記

初めての取材、緊張の中いろいろなお話を聞くにつれて自分自身が活動をしている頃を思い出しました。最近は自治会の活動で手いっぱいでしたが、自分自身にも刺激をいただき何かできることからまた始められたらなあと思いました。(おうみネットサポーター 河林 利明)

どろんこさんの取材は、東日本大震災後いち早く、寄付を集め、避難所の高齢者や障がい者、乳児へ「おかゆ」支援を始められた時にもさせていただきました。被災地への継続的な支援もどろんこさんの大切な活動にされているのだと感じました。(おうみネットサポーター 坂下 靖子)

「現場取材」で得た感想を一言。当日、予定は満開の桜のもとでの「花見deコミュニケーション」。日本文化の理解には格好のイベント。しかし、外はあいにくの雨。このギャップ・ジレンマをどう解決・克服していくのか！早速スタッフが協議、実に見事でした。仕切りは女性。「輝く女性」に脱帽！(おうみネットサポーター 荒木 威)

おうみネット 94

●2015 夏号●



Ohmi Network Center
淡海ネットワークセンター
公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
■TEL 077-524-8440
■FAX 077-524-8442
■http://www.ohmi-net.com
■E-mail:office@ohmi-net.com
開館時間 / 9:00 ~ 17:00
休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さきら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県情報室など

市民活動・人・企業との出会い広がる情報交流誌
「おうみネット」 掲載広告募集中!

★発行部数10,000部
★県内外の配布先約2,000カ所
★1枠(横9.3cm×縦3.5cm) 15,000円



詳細は、当センターまでお問い合わせください!

おたがいさまがつながり、活きる。

未来ファンド **個人の気持ち、企業のCSR**
おうみ 様々な“志”を地域に支える市民活動へ、
しっかりつなぎます。

寄付をお考えの方、詳しい内容を知りたい方は、
淡海ネットワークセンターにお気軽にお問い合わせください。



この印刷物は大豆油インキを包含した植物油インキを使用しています。